

月刊
JMITU **チキムカ**



6月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部
セガ グループ分会 2018年発行

No.402

本社移転 新たなオフィスで「新たな旅立ち」

その裏では契約満了で更新されない

本社移転を目前に

契約満了で更新しない

これはある契約社員の話です。

社員になれるからという誘いがあつたので、前職を辞めて、正社員になる事を条件に入社した。

契約社員化まではステップは早かった。しかし、正社員へなる前に、上司から今年の5月で契約満了更新はしない。

当初は、大手の会社に入社し、本人としても凄く嬉しく名誉な事だった、給料も減って、それでも社員になれるからと頑張ってきた。

契約更新をしないという理由

・あなたが居ても居なくても変わらない。

・工数軽減に対して実績を残せていない。

マネージャーに言われ、部長は横で聞いているだけだった。本人は上司と掛け合った。

・「居ても居なくても」に対し、部署内での出来る事を明確にし、フローを回す為の立ち位置の移動をお願いしても聞き入れられず何度も無視された。

・工数軽減に対しては、当初聞いた工数を超えない様に調整をしたが、「それは実績でない、本来はもつと下げたかった」と後付けの話がその場でされた。話し合いで更新の意思は一切ない事がわかる。

上司から折衷案を探したいと言われ、他部署への異動や、グループ会社への斡旋が行わ

れた。本人は部長が推してくれて何とかしてくれると思っていたが、部内での異動検討もなく、先方から返答が来てメールの内容を説明後、「無理でした」と軽い回答。そもそもどこにも入れる気も残す気もなく自身の体裁だけで動いた？

これでは、何も決まらないと思い、自ら人事へ確認し、同じグループで斡旋先を依頼したが、部長からの後押しが必要との事で改めて部長へお願いをした。

お願いした先は、元々経験がある部署だったが、職務経歴書も見せず、メールで年齢・名前・現在の業務を伝えただのみ。結果は駄目、理由は年齢的なモノ「これでは自分が先方としても断りますよ。職歴等、話をさせてくれないと。」部長にも言ったが、「対

応が悪かった申し訳ない」その言葉のみで終わった。

本社移転「新たな旅立ち」の前にこんな事が行われているのでしょうか？「新たな旅立ち」とは退職して新たな会社に旅立てと言う事なのでしょうか？

有期契約から無期契約へ

今まで有期契約で勤務していた人達も、平成25年4月1日以降に開始する有期労働契約の通算契約期間が5年を超え、引き続き雇用を希望する人は、会社に対して期間の定めのない労働契約への切り替えを申込みことができます。但しこれは本人が会社に申し出なくては、有期契約のままです。自動ではないので、会社所定の書式で申し込みをしなければなりません。

働き方改革は

労働者を守るか

時代に逆らう法案

「働き方改革」この法案は、前提となるデータがねつ造や異常値が発覚し、国会に提出すること自体に疑義が突き付けられています。

歯止めのない長時間労働を蔓延させる「過労死促進・合法化」という危険な中身がこれまでの野党の追及で明らかになりましたが安倍晋三政権はまともに説明できません。

破綻があらわな法案を賛成多数で衆院可決した与党などの責任は重大です。

戦後労働法制を否定

一括法案は、働く者の命と健康を破壊し、権利も脅かす重大な中身が盛り込まれている文字通り「働かせ方」大改悪案です。これは戦後日本の労働法制の否定でもあります。

敗戦直後の1947年に制定された労働基準法は第1条で「労働条件は、労働者が人たるに値する生活を営むための必要をみたすべきものでなければならぬ」と掲げています。

制定時の国会で政府は、民間の自由契約だけに任せていては労働者を守れない、国家が基準を示すべきだなどと説明していました。

さらに戦前のような時間を引き延ばして仕事をするよりも、国際的な水準の上にたつて能率を上げるよう転換すべきではないか、朝から晩まで長い

時間働いて、帰って寝る時間しか与えられないのではしつかりした日本の再建にならないと強調していました。

これらの議論は日本国憲法27条2項「賃金、就業時間、休息その他の労働条件に関する基準は、法律でこれを定める」の規定を受けたものです。

働き方改革は労働者の健康と生活を守るか

一括法案は働く者の命を破壊し、権利も脅かす重大な中身が盛り込まれている文字通り「働かせ方」大改悪案です。

労働時間規制を撤廃する「高度プロフェシヨナル制度」（「残業代ゼロ制度」）を初めて導入しようとしているのは大問題です。

同制度は、労働時間規制を全面に適用除外にし、週休2日に

あたる年104日だけ休めば、24時間労働を48日間連続させても違法のならないというところでもない仕組みです。

これは労働者が長年の闘いでかちとってきた「8時間労働制」を根底から覆すものにほかなりません。

人間的な生活をするうえで極めて重要な課題です。

1919年結成の国際労働機関（ILO）が採択した最初の条約も1日8時間・週48時間の規制についてのものでした。

「残業代ゼロ」制度が労働者を守る歴史の進捗を逆転させる制度は明白です。

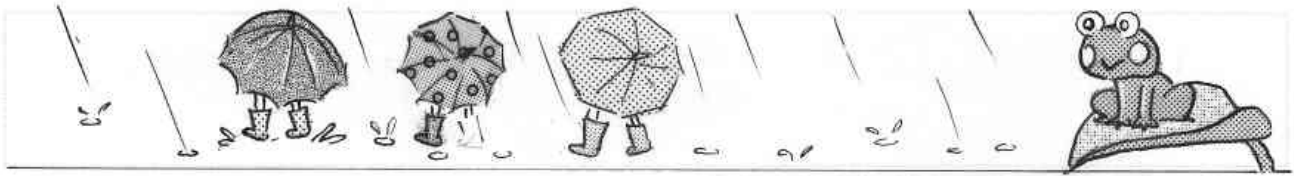
企業が発展して儲かり労働者の生活が良くなれば「働かせ方改革」は労働者に負担が多い制度です。

絶対に反対しなければなりません。

4こ未漫画

川崎よしき





シヨートシヨート

梅雨空

仙洞田一彦

ミナ子はマンシヨンの掃除の仕事を終えて、次のスーパーの仕事に入る前、勤務時間の組み合わせによつては一息つくことが出来た。仕事の掛け持ちでなく、ある程度のとまった時間、ひとつの仕事だけで働きたかったが、見つからないのだから仕方がない。娘を小学校に送り出すと、すぐにはじめの仕事場のマンシヨンに出勤して掃除の仕事をし、次のスーパーの仕事場に入る。今日は一息つくことが出来る日だ。

ミナ子はコンビニのレジで百円を出して、紙コップを受け取った。レジカウンターの

端にあるコーヒーマシンの紙コップをセットすると、アイスコーヒーマシンのボタンを押した。コーヒーマシンが満たされたコップを持って、窓際のカウンターに行つて腰掛けた。掛けてあるのはせいぜい十分にも満たないと思うが、その時間が取れると、ゆつたりした気分になれる。

ミナ子の母もダブルワーカーの時期があつた。父が商売に失敗し、借金を抱えてしまつた。その返済のためだつた。その父も亡くなつた。ミナ子は離婚し、子供を連れて家に戻つて来た。母は二つのうちのひとつの仕事辞めて、孫の面倒を見てくれていた。その分、家計はミナ子の肩に掛かつた。

六十歳半ばの母はパートで

働いていたが、具合が悪いと言ひ出して間もなく、逝つてしまつた。医者嫌い、薬を嫌う母は、我慢をしていたために手遅れになつてしまつたのだつた。母はおそらく身体に異変を感じていたはずだ。その時に医者にかければ何とかなつたはずだ、とミナ子は半ば恨みを込めて思う。何かと生活を支えてくれていた母が逝つてしまうと、支えがなくなつて先の不安が大きくなつた。癌だつて、不治の病ではなくなつたはずだ。

コンビニのカウンターには、ミナ子と同じくらいの年齢の男二人が掛けていた。二人とも黒っぽいスーツを着て、二人とも黒い鞆を足元に置いていた。営業の途中の一息だろ

「オヤジは稼いだ分だけ使つて死んだつて、兄貴が言つたんですよ」

男の声がかえてきた。思わず声の方を見たが、相手は返答の代わりに、言つた男の方に顔を向けただけのようだつた。ミナ子は会話を途中から耳にしたのだから、なぜそういう話になつたのかは分からなかつた。

ミナ子は、男の言葉で両親のことを思い出したが、父は交通事故死だつた。男の言つたのはどんな意味だろうと思つた。

「俺は三男坊で家を出ているし、分らなかつただけで、兄貴の言うには、延命治療とかで金がかつたという話で、その言い方が、早く死ねば良かったという言い方で、

頭に来ちゃって」

「それで喧嘩したの」

一方の男が言った。ミナ子の目の端に入っている男が、肯いて言った。

「通夜の客が帰った後だったけどね。オヤジの残した金とあったって、それほどのものではないけど。俺は兄貴に、遺産を当てにしていたのが外れたかって言ってしまった。そしたら兄貴が怒って」

「あたりまえだ」

落ち着いた声が聞こえた。

「兄貴にしてみりゃ、おふくろも面倒見なけりゃならんし、子供もいる。この先、金がかかる。そりゃ分かるんだけどね。でもね、ああいう言い方はないよな」

「おふくろさんも、兄さんにまかせつきり？」

聞かれた男は素直に肯いた。

相方は声をあげずに笑った。

「治療費がバカにならないって、兄貴が前にこぼしていたんだけど、俺、知らん顔をしていたから、兄貴を責める資格はないんだけどさ」

聞いた相方は、今度は声をあげて笑ったが、ふと思いついたように口をつぐんで、それから言った。

「俺も人のこと、笑っちゃいられないんだよな。どうも、

オヤジが始まったみたいなんだ」

「何が」

「認知症みたいだな」

「そりゃ、やばいっす」

「最近、言うこと、やることがおかしいんだ。この間は、マスクしたまんま飯を食おうとしたんだけど——本人は気

づいて照れ笑いしてたけどさ。

それに『アレ、アレ』が増えて名前は出てこないし」

「その程度は、普通」

「普通か」

「マスクして飯食うなんて、普通でもないか。やっぱ、やばいっすね。早いとこ手を打った方がいいかも。手遅れにならないうちに」

言いながら立ち上がった。

「介護なんて、やばいよな。

金はかかるし、家族が働けなくなるかも知れないし」

相方も、言いながら立ち上がり、足元の鞆を取り上げた。二人とも空の紙コップを屑籠に放り込むと、コンビニを出て行った。

二人の会話に気をとられていたミナ子は、いつもより長いこと座っていた。

ふと、母の若い頃のことを

思い出した。母は頭が痛いと言っては薬を飲み、どこか変だと言っては病院に行っていたはずだ。記憶をさかのぼって見れば、父の仕事が順調の時はずいぶん嫌いだ。『薬が嫌い』

「病院が嫌い」と言い出したのは、ミナ子が家に戻ってからのことだった。母は体の内側から来る痛みにも、快復の見通しがないことを感じていた

かも知れない。入院すればミナ子の負担になる。世話もしながら、働き続けなければならぬ。働かずに暮らす姿が浮かんで来たのかも知れない。

ミナ子はアイスコーヒーを飲み干し、口に含んだ氷をかみ砕いた。ガラス越しに見える空は、暗さを増して、今にも降り出しそうだった。

も降り出しそうだった。

成果主義賃金

セガに成果主義賃金が導入されて十年以上が経過しました。年齢や勤続年数に関係なく仕事の成果で賃金をあげる制度だと、がんばって働いてきたが、思ったように給与は上がらないという人は多いと思います。

成果をあげれば賃金があがるといえば、なんとなく公平そうですが成果をどうはかるかが問題です。多くの場合、上司と話し合って目標を設定し、どれだけ達成したかを採点するかたちをとります。しかし、チームで一体となって仕事をする研究開発や、同じような仕事をする総務部門などは、個人ごとに成果をはかるなんて無理な話です。

仮に全員が目標を達成しても、人件費のワクが決まっているため、上司は採点に差をつけなければなりません。結局、好き嫌いとか、仕事の成果と関係ないところでランク付けすることになります。

目標を達成しても低ランクに落とされ賃金が下がることになります。成果主義賃金は、はかりようのない個人の成果を無理やりはかり差をつけて賃金を下げるシステムにほかならないということです。

上司の評価に納得ができない場合は、しっかりと理由を聞き、自分が納得いくまで話し合うことが必要です。上司がきちんとした理由を言ってくれない場合や、話を聞いてくれないというときは、ぜひ組合にご相談ください。

労働組合に

入りませんか！

職場でいじめ（パワハラ）をうけている・自由に休みがとれない・残業代が支払われない・突然会社から解雇と言われた・賃金が上がらないなど、職場での悩みはありませんか。そんなときは一人で悩まずに、私たち労働組合にご相談ください。

私たちJMITU（日本金属製造情報通信労働組合）は、全国組織の労働組合です。正社員でなくても、パートやアルバイト、派遣社員の方でも加入できる組合です。働きやすい職場をつくるには労働組合が必要です。ぜひ職場に労働組合を作りましょう！

労働相談、ご意見、ご質問は、下記にお寄せください。

JMITU 本部 TEL 03-5961-5601 : FAX 03-5961-5603

ホームページ <http://www.jmiu.com/>

JMITU 大田地域支部 TEL 03-3734-3502 : FAX 03-3734-3534

ホームページ <http://www6.plala.or.jp/JMIUOOTA/>

セガグループ分会ホームページ <http://www.jmiusega.com/>